

令和7年度「地域学校協働本部事業」 大熊町の取組事例

(福島県大熊町)

取組の概要や経緯

当町では令和8年度の本格的実施を見据え、今年度はプレ活動期間として、行政組織及び地域住民に地域学校協働活動の仕組みと効果について理解を深め、かつ翌年度の本格的実施に向け機運醸成を図ることを目的として、事業を実施した。

内容

(1) コミュニティサロン

地域と協働し、地域に開いた学校として地域住民の方が学校へ足を運ぶ機会を作るべく、月1回学び舎ゆめの森にカフェ空間を創出する。

(2) 地域学校協働活動推進事業講演会

主に学校運営協議会委員、社会教育委員等に地域学校協働活動の仕組みや効果について理解を深めていただくことを目的に講演会を行う。

ポイント

(1)はコミュニティサロンが地域全体の居場所となり、大人と子どもとの多様なつながりの場となることを目指すべく実施した。

(2)は福島県内で地域学校協働活動について豊富な経験を有している方を講師として迎え、その経験を町教育関係者と共有することを目指し講演会形式にて開催した。

成果

(1) …毎月1回実施し、カフェや図書の貸出ほか、12月からは「しめ縄飾りづくり」「ことばの森」と題したワークショップも合わせて行い、参加者から好評を得た。(12月の参加者：22名、1月の参加者：42名)

(2) …令和8年1月13日にふくしま学校と地域の未来研究所代表の安齋宏之氏を講師に迎え、「みんなで作る子どもと地域の未来～コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進～」という演題にて開催した。(参加者：16名)



※コミュニティサロン



※地域学校協働活動推進事業講演会

今後の方向性

今年度実施した事業から得られた知見を踏まえ、次年度からの本格的実施を目指し、事業を展開する。

地域学校協働活動の仕組みや効果については、本格的実施となる次年度も引き続き発信していく。